

平成 25 年度 事業報告

(平成 25 年 8 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

(はじめに)

公益財団法人大阪対がん協会は平成 25 年 8 月 1 日付で設立登記した。法人の事業年度は定款で 4 月 1 日～3 月 31 日と定めており、初年度の 25 年度については 8 月～3 月の 8 カ月間の報告となる。なお、25 年 4 月～7 月の 4 カ月間は財団法人の最終年度として事業報告を済ませている。

《公益目的事業》

(公1) 普及・啓発活動： 啓発イベント開催・情報発信・がん検診の奨励など

【がんに関する啓発イベント】

▽主催行事

① がん看護セミナー

がん看護セミナー「がんとその心得」を 11 月 8 日、大阪市北区中之島のアサコムホールで開催、約 60 人が来場した。公益財団法人移行後、大阪対がん協会が単独で主催した初の普及啓発行事。婦人科専門医による講演「子宮がん診療の最近の動向」や、医師、看護師、大阪府のがん対策担当課長らによるシンポジウム「今どきのがんと向き合い方」などで、女性に多いがんの診療や看護をテーマに語り合った。セミナーの経費は 24 万円だった。

② 成人病公開講座

大阪府立成人病センター、大阪成人病予防協会とともに 3 回開催した。いずれも成人病センター講堂(定員 140 人)で開き、会場は毎回満席となった。毎回、府立成人病センターの医師ら 3～5 人が講師を務め、診療場面の動画なども織り交ぜて、分かりやすく説明している。

なお、25 年度の 1 年間では 4 回の開催となり、通算で 63 回に上った。各回のテーマと講師は次の通り。

回数	開催日	テーマ	講師(敬称略)
60 回	6 月 18 日	最新の肝がん治療	片山和宏、中澤哲郎、左近賢人
61 回	9 月 10 日	脳腫瘍と脳血管障害	高垣匡寿、千葉泰良、木下学
62 回	11 月 19 日	最新のがん治療戦略	井上正宏、和田尚、鼻岡昇、西村和郎
63 回	2 月 18 日	成人病における緩和ケアとメンタルヘルス	濱卓至、和田信、田口賀子

③ がん予防キャンペーン大阪

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムが10月5日、大阪市中央区高麗橋の朝日生命ホールで開かれ、209人が参加した。大阪対がん協会は実行委員会を構成する11団体の一つとして15万円を助成した。構成団体はほかに大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、事務局は大阪府保健医療財団が担当している。今年度のテーマは「正しく知ろう！ 胃がん検診と最近の治療法」で、胃がんの検診や治療について医師3人が講演、最後に総合討論を通じて検診の重要性などを訴えた。

▽「共催」「後援」行事

自治体、医療機関、患者団体などが主催するイベントに対して、協会が「共催」や「後援」名義を付けて支援した。方法としては、協会ホームページの「講演会・イベント情報」欄にアップしたほか、朝日新聞大阪版のお知らせ欄「TOWN」への掲載などで広報PRに務めた。また、協会発行の小冊子「進め！ がん防衛隊」を参加者に配布した。イベント支援を通じて他団体と信頼関係を築くことに努めた。

【がんに関する情報発信】

① オリジナル小冊子の配布、増刷

協会発行のがん啓発小冊子「進め！ がん防衛隊」を広く配布し、多くの方にご覧いただき、多くの方にがんを知るきっかけにしてもらった。7月までに会員やがん拠点病院などへ6千部以上配布し、8月以降も自治体や主催行事や後援行事で配布を続けた結果、当初発行の1万部が底をつき、12月に1万部増刷した。がん診療拠点病院などから購入の希望も相次ぎ、1月からは増刷分を1部60円(税込み)で販売を始めた。

② 協会ホームページ

インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、平成22年5月に協会ホームページを開設し、4年目を迎えた。内容の充実ときめ細かい更新で最新の情報提供に努めた。25年度1年間の掲載項目数は「協会からのお知らせ」が18件(24年度21件)、「講演会・イベント情報」が20件(同32件)だった。

③ DVD・ビデオ貸し出し

協会在庫のDVDやビデオを有効活用し、無料で貸し出すサービス(送料のみ負担)を23年度から始めており、引き続き取り組んだ。日本対がん協会が企画・制作した作品など12作品44本をリストアップし、ホームページでサービスを案内している。25年度は1年間の貸し出し件数がDVD3本、ビデオ0本だった。

④ 事業概要・協会報

12月に「平成24年度事業概要」を発行した。24年度の事業内容や寄付者名簿のほか、公益移行を受けた会長あいさつや定款、役員名簿も併せて掲載した。会報は8月、12月に発行した。公

益移行に伴い、紙面の色や題字デザインを変えた。

【日本対がん協会関連事業】

公益法人移行を機に、公益財団法人日本対がん協会と覚書を結び、「日本対がん協会大阪府支部」としてがん征圧事業で連携、協力を進めた。

① がん征圧月間

9 月を「がん征圧月間」として日本対がん協会が展開する各種事業に参加・協力した。メイン行事として北海道札幌市で開かれる「がん征圧全国大会」に専務理事が参加した。共通デザインの「がん征圧月間」と「禁煙」の 2 種類のポスターを 150 枚製作し、大阪府医師会を通じて府下の医療機関に配布したほか、大阪エイフボランタリーネットワーク、大阪府地域婦人団体協議会、大阪府看護協会、大阪府などの関係機関にも配り、掲示を依頼した。

② 近畿ブロック会議

日本対がん協会と 2 府 4 県の支部が、がん征圧事業の報告や意見交換をする近畿ブロック会議を 10 月 18 日、大阪市中央区馬場町の KKR ホテル大阪で開催した。開催支部は 6 府県の持ち回りで、25 年度は大阪が当番団体として、開催準備、当日の運営を担った。

会議は午後 2 時から 5 時までで、堀会長が議長となって議題を進行した。

③ 乳がん検診無料クーポン券の活用

日本対がん協会が発行しているマンモグラフィ検診無料クーポン券を活用し、乳がん検診の受診率向上に取り組んでいる。9 月に 50 枚をプレゼントする企画を新聞とホームページに掲載、はがきで 72 人から応募があり、10 月はじめに抽選で当選者を決めて発送した。

なお、プレゼント企画は 5 月にも行っており、100 枚に対して 410 人から応募があった。年間通算では、クーポン券 150 枚のプレゼントに対して応募者は計 482 人に上った。

④ リレー・フォー・ライフ大阪

日本対がん協会が主催するがん患者支援イベント「リレー・フォー・ライフ」が、25 年度は大阪府内 2 カ所で開催された。9 月 21～22 日に貝塚市の府営二色の浜公園、10 月 12～13 日に大阪市の大手前高校で開かれた。大阪対がん協会は同イベントを「後援」し、実行委員会に理事が参加して PR や準備に協力、当日の運営も手伝った。また、小冊子「進め！がん防衛隊」を両会場イベント参加者に配布した。両会場の参加者は 4142 人に上り、集まった募金・協賛金から 365 万円が日本対がん協会に寄付された。

【患者支援活動】

患者会ネットワーク

大阪の二十数団体で構成する「大阪がん患者・家族連絡会」の事務局機能を 24 年度から担っており、25 年度も継続して取り組んだ。世話人からの依頼により、会議日程のメール送信や、会議室の確保などを担当した。また、大阪府のがん対策担当課（健康づくり課）からも会議日程案内などの送信依頼があり、連絡会メンバーに送信した。

(公2) がん研究助成： がんの研究、治療に当たる医師、看護師らへの助成

【がん研究助成奨励金】

新進(40歳未満)の研究者・医療従事者を支援する「がん研究助成奨励金」を、協会の目玉事業として取り組んでいる。同事業は協会設立翌年の昭和35年度から始め、今回で54回目を数えた。25年度も「基礎」「臨床及び疫学」「看護等」の3部門で15人の受賞者を選び、各30万円を贈呈した。今年度は計85人から研究成果の応募があり、13人の選考委員が採点した結果をもとに2月17日に開かれた選考委員会(委員長＝堀正二・協会長)で受賞者を選んだ。受賞者は今回で延べ1644人、奨励金の総額は3億8530万円となった。

公益財団法人移行に伴い、従来以上に選考の公平性、透明性を担保するため、審査基準の明記や5段階評価への変更など採点方法を見直した。

贈呈式は3月17日、大阪市中央区馬場町のKKRホテル大阪で開かれ、堀会長が受賞者一人一人に賞状と奨励金30万円を手渡した。受賞者を代表し、基礎の部で受賞した笹川覚さんがあいさつした。

なお、この事業にはバイエル薬品、塩野義製薬、MSD、アストラゼネカから特定寄付の形で支援を得た。

受賞者と所属は以下の通り(敬称略、50音順、平成26年3月17日時点)。

部門	受賞者氏名	年齢	所 属
基 礎	一井 倫子	39	大阪大学大学院医学系研究科 助教
	植村 守	39	大阪大学大学院医学系研究科 助教
	笹川 覚	39	大阪府立成人病センター研究所 研究員
	田中 良道	36	大阪医科大学附属病院 助教
	向井 智美	28	大阪大学微生物病研究所 特任研究員
臨 床 及 び 疫 学	秋田 裕史	39	大阪府立成人病センター 診療主任
	高橋 佑典	33	大阪大学大学院医学系研究科 大学院生
	中田 佳世	35	大阪府立成人病センター 主査
	野沢 彰紀	32	大阪市立大学大学院医学研究科 大学院生
	野尻 崇	37	国立循環器病研究センター研究所 特任研究員
	牧野 知紀	37	近畿大学医学部 助教
	南 俊行	36	大阪大学医学部附属病院 特任助教
看 護 等	井上 佳代	39	大阪大学大学院医学系研究科 大学院生
	北川 聡美	23	大阪大学大学院医学系研究科 大学院生 看護師
	山川 幸枝	33	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター がん看護専門看護師

選考委員は以下の 13 氏に委嘱した(敬称略、50 音順)。

部門	選考委員	所 属
基礎	大道 正英	大阪医科大学教授
	加藤 菊也	大阪府立成人病センター研究所長
	金田 安史	大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長
	北村 幸彦	大阪大学名誉教授
	螺良 愛郎	関西医科大学教授
臨床及び疫学	荒川 哲男	大阪市立大学医学研究科長・医学部長
	奥野 清隆	近畿大学医学部外科学主任教授
	木下 博明	大阪市立大学名誉教授
	小山 博記	大阪府立成人病センター名誉総長
	津熊 秀明	大阪府立成人病センターがん予防情報センター長
看護等	荒尾 晴恵	大阪大学大学院医学系研究科教授
	今中 基晴	大阪市立大学大学院看護学研究科長
	田中 京子	大阪府立大学看護学部教授

《会員向け事業》

主に賛助会員向けの特典として協会が進めてきた事業について、公益財団法人移行後は「その他の事業(相互扶助等事業)」として、公益目的事業と区分した。25 年度も以下のような会員向け事業を継続実施した。

(他1) 賛助会員サービス： 定期的な情報の提供・がん検診の奨励と援助

【情報の提供】

① 協会報

公益財団法人移行後、協会報は8月、12月の2回発行した。各1600部印刷し、会員を中心に配布した。5月発行分も含め、25年度1年間の内容は以下の通り。

発行月	主 な 内 容
5月号	平成24年度がん研究助成奨励金を贈呈・受賞者紹介、講演会・イベント情報、小冊子「進め！がん防衛隊」発行、会員へのお願い、がん検診サービス券配布、理事会・評議員会
8月号	公益財団法人へ移行、堀会長あいさつ、役員名簿・評議員名簿、平成24年度決算、開催報告(リボンの騎士ナイト)、マンモ検診無料券プレゼント、秋のがん検診案内
12月号	平成25年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋のイベント報告(がん看護セミナー、リレー・フォー・ライフ、がん予防キャンペーン)、がん情報のページ(がん死亡率最新データ)、来春のがん検診案内

② 事業概要

「平成 24 年度事業概要」を 12 月に発行した。1700 部印刷し、会員のほか、関係機関に郵送した。A4 判で、表紙含め 48 ページ。従来通り事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、がん研究助成奨励金の 24 年度受賞者 15 人の研究内容を 8 ページにわたって紹介した。普及啓発活動の紹介では、協会の主催・共催・後援イベントの一覧表を載せた。

【がん検診の案内・援助】

① 春・秋のがん検診

秋のがん検診を協会報 8 月号で案内、受診の勧奨に努めた。検診は大阪府医師会保健医療センターで、胃、大腸、肺、乳房、子宮の 5 部位について、10 月～11 月の 2 カ月間実施された。

がん検診の案内は春も行っており、大阪がん循環器病予防センターで 4 月～5 月の 2 カ月間実施している。25 年度 1 年間では延べ 165 人が受診した。このうち何らかの所見があった人は 0 人であった。

会員向け検診への補助として、春は検診受診票の送付切手代の経費として協会が 1 万円を負担、秋は検診施設の医師会保健医療センターへ 10 万円を助成した。

② がん検診サービス券

賛助会員への新しいサービスとして 23 年度から始めた「がん検診サービス券」(千円分)の発行・配布を 25 年度も継続して行った。検診施設でがん検診を受診し、千円以上の自己負担があったことを証明する領収書をサービス券とともに持参かお送りいただくことで現金千円か、千円分のクオカードと引き換える。サービス券の利用により、がん検診受診率の向上に寄与する狙いもある。新規入会者を含め賛助会員の全員にサービス券を配布した。サービス券の利用者は 25 年度の 1 年間で 61 人(24 年度は 65 人)に上った。

《協会の運営》

【決算および寄付の状況】

① 初年度(8 カ月)の収支は赤字

公益財団法人の初年度は 8 月から 3 月までの 8 カ月間となる。初年度の決算は、経常収益(収入)が 1281 万円、経常費用(支出)が 1575 万円で、経常増減額は 294 万円の赤字となった。

ただし、予算との比較でみると、予算は収入が 907 万円、支出が 1494 万円で、587 万円赤字の予算を組んでおり、決算額は収入が予算を大きく上回ったため、収支赤字が予算より 301 万円少なかった。協会の重点事業である「がん研究助成奨励金」が下半期の 11 月～3 月に行われることから、事業費が下半期に偏っている半面、収入面では賛助会員からの会費入金 が 5 月～6 月の上半期に多いという事情がある。

② 通年の収支は 3 年連続黒字

平成 25 年度は財団法人最終年度(4 カ月)と公益財団法人初年度(8 カ月)の分ち決算とな

る。このため、財団法人時代の4カ月(4月～7月)と合わせた1年間の通年ベースで収支を計算すると、収入が2305万円、支出が1976万円に上り、329万円の黒字となった。

過去との通年比較では、23年度(189万円黒字)、24年度(96万円黒字)に続いて、3年連続で黒字となった。

③ 通年の寄付は4年連続増、会員は減少

平成25年度の1年間(財団法人と公益財団法人の合計)で見た場合、受取寄付金(会費を含む)は2274万円で、前年度に比べて204万円増えた。寄付金が増えたのは22年度(478万円増)、23年度(392万円増)、24年度(246万円増)に続いて4年連続となった。

寄付金の内訳とみると、賛助会員からの会費収入が480万円、会員数は797件で前年度に比べ28万円、116件のいずれも減少となった。会員のうち、維持会員(年会費2千円以上の個人)は677件、特別会員(同1万円以上の個人または法人)は103件。23年度から始めた法人特別会員(同3万円以上の法人)は12件だった。高齢などの理由で維持会員の退会が相次ぎ、会員数の減少傾向に歯止めがかからなかった。新入会員は17件(個人17件)だった。

一方、一般寄付は88件、1792万円で、前年度に比べ9件減、231万円増だった。このうち製薬会社や保険会社から使い道を指定した「特定寄付」として、がん研究助成奨励金事業への協賛が190万円に上った。一般の寄付では、500万円以上の大口寄付が2件(うち1件が遺贈)あったのが大きな増額要因となった。ほかにも個人から100万円の大口寄付が1件あった。

【収入増の取り組み】

① 啓発行事への協賛

普及・啓発事業のうち、協会が運営に関わる主催・共催行事については、開催経費の一部を協賛金や広告料で賄う方針で臨んだが、25年度は年間を通してプログラム広告掲載料などの収入はなかった。

なお、リボンの騎士ナイト(7月7日開催)では、チケット1枚につき300円を「がん征圧事業へ役立てる」との趣旨で協会に寄付していただいた。寄付金は10万円(チケット259枚分と当日の寄付)に上り、12月に入金された。

② 特定寄付の確保

がん研究助成奨励金事業については、4社から計190万円の特定寄付金を確保できた。

③ 募金型自動販売機

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組むことで、協会の収入増と知名度アップをめざしている。25年度は市立豊中病院内の喫茶店で新たに設置され、10万円(年間定額の契約)の寄付を得た。21～24年度に設置された箇所も含めると、募金型自販機を通じた収入は年間ベースで約137万円に上っており、協会にとって、安定的な財源になりつつある。

④ 雑収益

日本対がん協会近畿ブロック会議は、大阪対がん協会が当番団体として準備、運営を進めたため、収入、支出とも25年度会計に組み入れた。参加者から得た分担金は計24万円に上り、雑収益として処理した。また、小冊子「進め！がん防衛隊」は、がん診療拠点病院などから購入の希望があり、1部60円(税込み)で販売した。販売収入は94万円に上り、一般寄付とは区別し、雑収益として処理した。23～24年度にあった封筒広告の収入は、25年度は得られなかった。

【公益財団法人へ移行】

① 公益法人設立を登記

協会は公益財団法人への移行をめざして平成24年9月5日に大阪府へ移行認定申請書を提出した(電子申請)。その後、申請内容について大阪府でチェックされ、担当課(健康づくり課)を通して質問や修正指導を受けた。さらに大阪府公益認定等委員会による審査が計4回あり、6月28日の委員会で「認定基準に適合」との判断が下されたのを受け、松井一郎知事名で7月23日に移行認定書が交付された。協会は大阪法務局で手続きし、8月1日付で財団法人の解散と公益財団法人の設立登記が完了した。

② 移行後の手続き

公益財団法人移行後は、大阪府に移行完了届を提出したのをはじめ、国、大阪府、大阪市の各税務署へ法人変更の届け、協会印の変更、会長名での挨拶状、預金口座の名義変更など、必要な手続きに追われた。また、協会に寄付した個人や法人が所得税、法人税、住民税などで税制上の優遇を受けるために必要な手続きも行った。11月12日付で松井一郎知事名の「税額控除に係る証明書」の交付を受けた。

③ 最初の評議員の就任

公益財団法人移行時の役員については、理事と監事は財団法人時のメンバーが移行後も継続して就任した。一方、評議員については、24年6月27日に開いた「最初の評議員選定委員会」で選出された13人が8月1日付で就任した。メンバーは次の通り(敬称略)。

氏名	肩書	氏名	肩書
青山 ヒフミ	大阪府立大学看護学部教授	谷川 允彦	谷川記念病院理事長
石崎 勝義	元大阪対がん協会専務理事	遠山 正彌	大阪府立病院機構理事長
奥野 清隆	近畿大学医学部外科学教授	中尾 正俊	大阪府医師会理事
小倉 剛	結核予防会大阪府支部顧問	中野 秀男	大阪市立大学名誉教授
加藤 菊也	大阪府立成人病センター研究所長	濱本 満紀	がんと共に生きる会事務局長
木下 博明	大阪市立大学名誉教授	福原 毅	大阪府病院協会副会長
高杉 豊	大阪府保健医療財団理事長		(以上13人)

なお、公益移行後に理事の1人が交代した。石川治氏が辞任し、代わって左近賢人氏(大阪府立成人病センター病院長)が9月17日付で就任した。